

成人の日

先日の「成人の日」。大人の仲間入りをしたみなさん、おめでとうございます。人々が笑顔で暮らせる豊かな社会をつくり、前へと押し進める一員として、存分に活躍してください。

本来なら門出の祝いのはずですが、コロナ禍で式が中止や延期となってしまった地域も多かったようです。

みなさんが生まれたのは2000年から2001年にかけて。携帯電話の普及率は50%を越え、インターネットの導入も急速に進んだ頃だと思う。iPhone(アイホン)の発売が2007年。ものごころついた時には有能な端末がパートナーだったわけです。

でも、それだけでは、解決できなく、多くの課題に気付かされたでしょう。世界との距離を縮めるはずの先端の機器が、逆に文化や考え方の違いを際立たせ、分断を煽るようになっていく。地球規模での経済の発展は、一部で貧しさや格差をもたらしている。自然をほしのままに利用したせいもあって、気候変動やその影響に悩まされている。予期しない感染症との闘いは、今後も続くにちがいない。

終戦の折に19歳だった茨木のり子さんが、後に綴った詩。「わたしがいちばんきれいだったとき わたしの国は戦争に負けた」。さらには「わたしはとてふしあわせ」などと続く。大きな紛争が地を覆わぬ道を探り、いつの日か輝かしく誇らしい一節を付け加えよう。美しい響きこそ、若者が未来を切り開く証となると思う。

都商会 鎌野



とにかく生き抜く

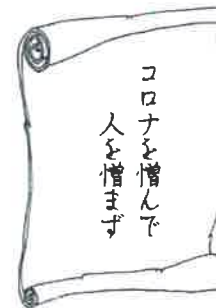
今月もまたコロナのお話で恐縮ですが、1月14日に11都道府県に再度の緊急事態宣言が出されてから、今日1月28日現在で丁度2週間が経ちました。そのお陰なのか、現在の患者数は、ピークだった1月18日の74,252人から徐々に減り始め、1月27日には50,060人と、10日間で約24,000人減となりました。このまま減り続けてくれるとよいのですが、重病者数は依然1,000名辺りの高止まりです。そして、亡くなられた方は累計で5,387人。累計での国内感染者数は376,380人となり、人口1億2,650万人の日本人のまだ0.3%に過ぎません。

世界では累計感染者が1億人を越え、総人口約78億人ですから、78人に一人の1.3%が既に感染したこととなります。そして累計の死者数は約2,200,000人となり、死亡率は約2.2%となっています。

コロナの変異種も確認されており、感染力が強かったり、死亡率が高くなるようなことも言われています。色々な情報が錯綜していますが、冷静に情報を取捨選択しましょう。

御殿場市においても、若林市長がいつも呼びかけている様に、「コロナを憎んで人を憎まず」。コロナに罹ろうと思っただけの人はいないはず。罹ってしまったら、とにかく生き抜くこと。

まあ、普段の生活と一緒にいえば一緒ですけどね。



英樹



配り

第260便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 御殿場市中山518番地



気高くも皇帝ダリア青空に

コロナにも負けず自然はすごい

林 なをみ

ひろやかに青空透かせる鱗雲

あおぎ詣でる油山寺奥の院

勝亦 りつ子



一見さんお断り

今回はすごく偏見的な記事かもしれませんがあらかじめお断りしておきますね。4都県で緊急事態宣言が発せられ当該地区からの来客の対応に、御殿場市が市内の飲食店で使えるように「一見さんお断り」というポスターを作製し賛否両論渦巻いております。詳細は皆さんご存じでしょうから省きますが（ご存じない方はインターネットで「御殿場市」「一見さん」で検索してください。）私は、これ、賛成です。

「一見さんお断り」というやや過激で排他的な言葉で注目を浴びていますが、このご時世にこれを出さざるを得ない、という事に理解を示すことが出来ない人というのがそもそも脅威だと思うんです。「ああそうだよ、今は仕方がない。」と思える方はきっと感染症対策もしっかりされているでしょうし、節度ある態度で飲食されると予想されます。これに異議を唱える方は、おそらくそれほど多くは無いのしょうけれど、やや自己的な面がありそうな気がします。酔って大声で話すタイプがこのような人ではないかと思えます。「お客様は神様」的な振る舞いをする人に通じるものを感じます。それって貧乏神なんですけどね。そもそも緊急事態宣言が発せられた地域からは極力出ないように、という要請を無視している訳ですから、マスク着用、手指の消毒などをしっかりしているか疑問です。と、ここまでは本当に僕個人の偏見です。

これが一種の踏み絵になっていて、実際にこのポスターを知り、御殿場は差別的だ、御殿場には行かない、という批判の意見がいくつか届いているそうですが、コロナ感染に限らず自己中心的、利己的な客をふるいにかけているようにも思えます。

今回の「一見さん」＝「政府の緊急事態宣言に関する諸々の要請を無視して観光する人」ということが言えるのではないかな。もちろん仕事で来られる方もいらっしゃいますが、こんなご時世ですから仕方がないと思って諦めていただきたい。緊急事態宣言ってそういうものでしょ？

もちろん故郷にマイナスイメージを持っては欲しくありませんが、田舎の街の自衛策として僕は悪くないなと思っています。コロナ終息の際にはこの「一見さん」を逆手にとったキャンペーンで再び話題になることを期待したいですね。



柳田 敏和

投句

令和3年あけましておめでとうございます。

引き続きコロナ禍ではありますが、お体に気をつけてお過ごしください。

兼題：ポインセチア 『エコバックにポインセチアの赤一つ』

兼題：赤い羽根 『赤い羽根幾年超えて令和かな』

兼題：月 『赤と黒狭間に浮かぶ白き月』

兼題：小鳥 『俯瞰して踵を返す小鳥かな』

カタログハウス俳句に以前より投句しています。未だ佳作から抜け出せない！未だです。

こうして自分の句を文字にすると、つくづく凡人だ。と認識する。しかも、色から入るのは私の思考の癖だろうなあ。思いつくことを575にするのですが、なんでもその中に入れたがる傾向があり、文章となってしまう。そこから言葉を減らしたり、言葉の表現を変えたりするわけですが、なにせ、言葉の表現がつかない。言葉をしらない。例えば、空の表現。

●曇天（どんてん）：曇り空 ●中天（ちゅうてん）：見上げた空。さえぎるものがなにもない空の中ほど ●暁（あかつき）：夜明け。明け方 ●虚空（こくう）：なにも存在しない空間。

●雨催い（あまもよい）今にも雨が降ってきそうな空の様子。

まだまだあります、●雲居の空（くもいのそら）：雲が浮かんでいる空。遠く離れた所。

雲居の空・なんとなく耳に心地よい言葉だなと、私は感じる、人それぞれですが。こんなふう、句をひとつつくるのに調べるので、へえ～という言葉に出会う。ただそれが身になっていないんですがね。今年もつたないながら、投句してみます。

ねがみ



いくら



今年もふるさと納税の返礼品でいくらしょうゆ漬けが届きました。近年いからは親サケの不漁続きで高騰してしまっていて、スーパーで売ってるパックはとても手が出ないような値付けなのですが、返礼品で頂けるのであれば気にせず食べることができます。前回は大瓶で頂いたのですが、使い切る前にダメになってしましますし、あまり一度にたくさん食べると痛風になりかねないので、小分け冷凍パックで頂き、何パックかは親戚に配りました。年始のおせちにもいからは欠かせないものになりつつありますが、ロシア等、もともとサケかマスの卵をとって食べる地域でも、縁起物とされていて新年はパンに乗っけて食べたりするそうです。昔のような値段に戻ってくると、どんぶりいっぱいに乗っけて食べたりできるのですが.....。

正樹